

2020/5/17 京都・ミニ学習会  
「ムリバイカル記憶の日」 <2009年5月18日 スリランカ>  
7万人の犠牲の真実究明を!

(1)はじめに

2009年5月18日 ムリバイカル記憶の日/公式には「戦勝記念日」

1980年5月18日 韓国光州決起〜「名誉回復」、政府主催の追悼行事

1948年5月15日 「ナクバの日」/イスラエルでは「建国記念日」

(2)スリランカ内戦とジェノサイド

☆スリランカに関する民衆法廷 Peoples' Tribunal on Sri Lanka 2013年 12月 7-10日

日本語版(暫定版)

[https://attackansai.up.seesaa.net/image/People27s20Tribunal20on20Sri20Lanka20281B24BF7C1B28B1B24BK5C8IHG1B28B29\\_1B24B3BCDjHG1B28B2018\\_3.pdf](https://attackansai.up.seesaa.net/image/People27s20Tribunal20on20Sri20Lanka20281B24BF7C1B28B1B24BK5C8IHG1B28B29_1B24B3BCDjHG1B28B2018_3.pdf)

①なぜ「ジェノサイド」と呼ぶか?

独立以降の一貫した政策。シンハラ人による「単一民族国家」。言語、文化を奪う。

内戦終結時の無差別殺戮、最終局面の「非戦闘地域」での集団殺戮(7万人!)

その後も軍の常駐、土地の強奪、開発・観光を通じた民族アイデンティティの抹殺

「ノーマライゼーション」(イスラエルのパレスチナ政策と同じ)

②イーラム・タミルの民族自決権

スリランカの北部・東部はもともとタミルが居住、独立時にセイロンに併合

＊内陸部はインドから労働者として移住(紅茶プランテーションなど)

北東部の分離独立運動→内戦中、LTTEの統治下にあった事実上の準独立国家として活動していた。

停戦・和平交渉→政府軍が劣勢のため、米国が一方向的に交渉を中断させ、その間に軍にテコ入れ(イスラエルが支援)→総攻撃へ

「和平→住民投票」によって決めるべき

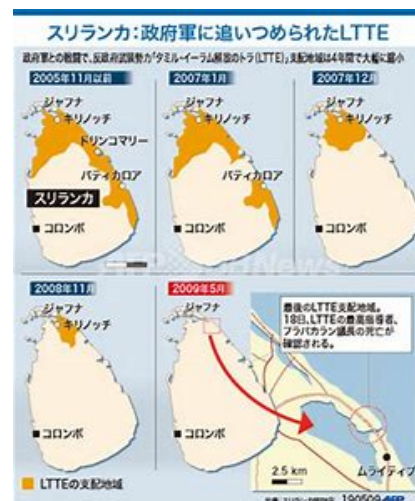
③「双方の暴力」

LTTE側の暴力も究明され・責任追及されなければならないが、あまりにも「非対称」である

しかも政府軍の背後には米国、英国、イスラエル。

パレスチナ問題と同じ構造

④困難



歴史的起源 - 英国の植民地支配（分断支配）

地政学的な位置と諸国の思惑

国際社会の無関心

### (3)この1年の動き

☆2019年4月21日、コロンボを始め8か所で爆弾テロ事件

（キリスト教の復活祭）教会や高級ホテルが狙われ、259人が死亡

実行犯は地元のイスラム過激派団体ナショナル・タウヒード・ジャマア(NTJ)の関係者（？）

この事件をきっかけに軍事化と右翼ナショナリズムが強まる～大統領選挙、初めての軍の最高責任者が大統領に。タミルの政党も反イスラム・キャンペーンで間接的に政権を支持。

☆7月25、26日、原田憲治防衛副大臣がスリランカを訪問、国防担当国務大臣（副大臣級）と会談、日本とスリランカの間で初となる「防衛協力・交流の覚書」に署名した。これまでの海・空軍種間に加え、新たに陸軍種間でも協力・交流の可能性を模索する。これに先立ち、原田副大臣は国防相を兼務するマイトリバラ・シリセナ大統領を表敬訪問し、日米が掲げる「自由で開かれたインド太平洋」の実現に向け、海洋安全保障分野を中心に両国間でさらなる関係強化を図っていくことで一致した。

「朝雲新聞」より：「スリランカはインドの南、シーレーンの要衝に位置する島嶼国で、面積は約6万5千平方キロ（北海道の約0.8倍）、人口約2千万人。古くから貿易港として栄えてきたコロンボ港には、海自の遠洋練習航海部隊が寄港してきた。近年ではソマリア沖・アデン湾の海賊対処任務を終えた海自護衛艦が帰国途中に寄港し、同国海軍の艦艇と定期的に親善訓練を行っている。

☆大統領選挙（11月16日）、元国防次官のゴタバ・ラジャパクサが当選（投票率約80%、得票率52・25%、対立候補のサジット・プレマダサ住宅建設・文化相は41・99%）

250人以上が死亡した4月の連続爆破テロを受け、治安対策が主な争点

「・・・新政権で注目されるのは中国との関係だ。[前大統領]マヒンダ氏は2009年に終結したタミル人の反政府武装組織「タミル・イーラム解放のトラ」（LTTE）との内戦中の人権侵害が国際社会から批判され、中国により接近した。陣営関係者によると、マヒンダ氏が首相に指名される可能性がある。ただ、ゴタバ氏はインドとの関係強化にも言及している。民族や宗教の融和への対応も注目される。少数派のタミル人やイスラム教徒は、ラジャパクサ家を「シンハラ至上主義者」と警戒する。ゴタバ氏は内戦中、タミル人の民間人の殺害に関与した疑いがあり、タミル人は調査を求めている」（「毎日」11/17）。

☆ゴタバ・ラジャパクサ大統領、インド訪問（11月28～30日）。「インド側がインフラ整備やテロ対策での支援を表明。一方、歴代政権と同様に中国と近い関係が続ける可能性も高い。シーレーン（海上交通路）の要衝であるスリランカでの影響力を巡って、中印の駆け引きが活発化しそうだ。・・・30日にニューデリーで行われた日本とインドの「外相間戦略対話」でも、スリランカを含む第三国での日印協力が協議された。インドは中国の影響力拡大という懸念を日本と共有しており、インフラ整備などでスリランカに経済協力していく方針だ。一方、ラジャパクサ政権はこうした中印の影響力争いを利用して、したたかに双方から支援を引き出したい意向とみられる。・・・タミル人はインド南部にも多く住んでおり、モディ政権は、タミル人を巡る問題が両国の関係強化の足かせとなるのは避けたい考えだ」（「毎日」12/2）。

☆インドの国籍法（12月に提出、イスラム教徒の国籍を剥奪）、インドからスリランカに移住し（英国植民地時代）、スリランカ内戦の中でインドに再移住したタミル人も国籍を取得できず。現在、南部のタミルナドゥ州の難民キャンプに1万8千家族、6万人。

☆イスラエルのスリランカ大使（駐デリー）がラジャパクサ大統領を訪問。経済協力の強化（農業近代化への技術支援など）に合意（2月12日）。同大統領は国防次官在任中に3度イスラエルを訪問している。

☆スリランカ大統領、コロンボでの国連特使（人権高等弁務官）との会見で、内戦時の行方不明者2万人が死亡していることを初めて認める。同時に、人権侵害の実行者を免責する法律を発表。（1月21日）。

☆2月19日、マヒンドラ・ラジャパクサ首相（元大統領、現大統領の兄）、戦争犯罪の調査に関する国連人権理事会決議[2015年の「スリランカにおける和解、説明責任、人権を促進する決議」30/1]から撤退すると発表

☆国連人権理事会 43 会期（2020 年 2/20~3/13）

「スリランカにおけるアカウンタビリティと人権」（2 月 28 日）

反差別国際運動（IMADR）：「国連人権高等弁務官のスリランカ報告書の発表に対し、アカウンタビリティ、和解および人権の促進に取り組むことを約束した 2015 年以降の決議への賛同を撤回したスリランカ政府の宣言に加え、司法や関連機関の独立性を担保した憲法修正条項（19）の取り消しや失踪者作業委員会を設置した法令の見直しを当局が示唆したことに警鐘を鳴らしました。また、新政権が設立した調査委員会が 11 人の若者の強制失踪と殺害の罪に問われている海軍士官らの刑事訴追を中断させようとしたことも指摘しました。2019 年 11 月から防衛省が NGO の監督担当となり、すでに 12 以上の人権団体やメディアが当局による嫌がらせのような訪問を受けていることも報告しました。最後に、人権理事会がスリランカにおける人権侵害の責任を問う国際的な仕組みを設置するよう求めました。この声明はアムネスティ・インターナショナル、フランシスカンズ・インターナショナル、ヒューマンライツ・ウォッチ他 4 団体との共同声明です・・・」

（声明文は <https://imadr.org/accountability-humanrights-srilanka-hrc43-2020-joint-os/>、英語）

「スリランカ：国連との約束を撤回 人権理事会は強い対応を」アムネスティ・インターナショナル（3 月 7 日）  
[https://www.amnesty.or.jp/news/2020/0306\\_8665.html?fbclid=IwAR1tg8DM77ruMtnGWTG7L7YUhr3\\_saD5eX2q5SAdXhJmeBuFoRH7vK8ewYE](https://www.amnesty.or.jp/news/2020/0306_8665.html?fbclid=IwAR1tg8DM77ruMtnGWTG7L7YUhr3_saD5eX2q5SAdXhJmeBuFoRH7vK8ewYE)

☆コロナ感染拡大で戒厳令（3 月 20 日～）。タミルやイスラム教徒へのレイシズムが拡大

☆3 月 26 日、大統領がスニル・ラトナヤケ陸軍下士官[内戦中の 2000 年 12 月に 5 歳のこども、3 人のティーンエージャーを含む 8 人を殺害、死刑判決を受け拘留中]の釈放を司法長官に指示

☆イーラムタミルの村に大規模な風力発電施設を作るというプロジェクト（アジア開発銀行が出資）、地元住民どころか住民の評議会の議員にすら相談なく決定、地元住民は沿岸地域の植生（オオギヤシなど）の破壊、塩害や地下水の汚染等の影響を恐れて反対。コロナ危機で止まっていた工事を 4 月中旬に再開。コロナ危機からの安全に必死の村に、シンハラ人の兵士や他の地域からの労働者が大手を振って行き交っている（「タミルネット」5 月 7 日）

☆今でも「元 LTTE メンバー」への搜索と称した「報復」攻撃が続いており、家族にも危害が及んでいる。5 月 8 日には A 数人の政府軍兵士が Aingaran さんの自宅を夜 10 時半に襲い、Aingaran さんのパートナーの母に暴行、入院させた。Aingaran さんが 1 月に兵士とちょっとしたことで口論になり、ひっぱたいたという容疑。この前には別の親戚も暴行を受けている。こうした迫害は増えている（「タミルネット」5 月 9 日）。

#### (4) まとめ

①スリランカ政府は真相と責任の究明のための国際調査を拒否。

②タミルの自治は破壊され、政府軍の常駐、村は分断され、次々と観光・商業地に。

中心地には「戦勝の碑」、5 月 18 日は「戦勝記念日」・・・イーラムタミルの文化も尊厳も奪うジェノサイドが今も続く。

③傷の癒えない現地の人々は、声も上げられない。人権活動家たちは亡命地で、記憶・記録を伝えようとしている。

④コロナ危機の中でもスリランカ政府は少数民族差別・・・紅茶プランテーションや輸出加工区で働くインド系タミルの人たち、イスラムの人たちが犠牲に。

⑤インド洋の軍事的要衝でもあるスリランカには米国・中国・インド、さらにはイスラエル、日本などの思惑も。

⑥英国植民地支配と民族分断統治の歴史と現代の地政学の全重圧・・・国際社会の関心とイーラムタミルの民族自決権への支持・連帯なしには解決できない。

## (5)日本とスリランカ

観光：（↓を参照）

仏教：シンハリ・ナショナリストを日本の仏教界が支援している、タミルの文化の抹殺に加担！

紅茶：労働者の多数はタミル

衣料産業・輸出加工区について：コロナ危機の影響、ファーストファッションからスローファッションへ

マイクロクレジットについて：エンパワーメント（特に農村、女性）

軍事化：

### [参考]

ある観光案内より

#### ①東海岸 East Coast

スリランカ東海岸は、タミル人文化（ヒンズー教、イスラム教）の根付いている地域で、他地域のシンハラ人文化とは異なります。2009年の内戦終了後、大自然をそのままに観光地開発が進み、アクセスもし易くなってきたため、最近のホットスポットになっています。

綺麗な海とサンゴ礁帯、シロナガスクジラ観察で名高いトリンコマリ、近年開発された高級リゾート地パシクダ、サーフィンのメッカとバードウォッチングで有名なポットビル&アルガンバイ周辺などなど、大自然をお楽しみ頂ける観光スポットが盛り沢山！

アクセス方法は、以前からある文化三角地帯経由の陸路、ラトゥナブーラ経由の南回り陸路、ヤーラ国立公園経由の陸路に加え、最近では中央高原バドゥーラ経由も可能になっています。また空路も1日数便あり時間の無い方々にも、訪問しやすくなっています。

トリンコマリ周辺

シギリヤ周辺の遺跡群（文化三角地帯）より北東へ車で約2時間強ドライブすると、気候も文化も違うタミル人の街トリンコマリに着きます。ここはスリランカ北東部、世界有数の天然港を持つ港街で、スリランカ海軍の重要拠点となっています。街の港に面した絶壁にはスワミロック（Swami Rock）と呼ばれる有名なヒンズー教寺院が建っていますので、是非訪問してみてください。また南側には海軍施設内にゴルフ場があり、一般人でも利用可能です。街の北部にはシロナガスクジラ観察やマリンスポーツで有名な、ウプベリビーチ（Uppuveli）、ニラベリビーチ（Nilaveli）、クチャベリビーチ（Kuchchaveli）といったワイルドで美しいビーチが伸びていますので、シーズン中（5月～9月）に是非訪問してみてください。

＊コロンボから空路で約1時間/陸路7時間」

#### ②「スリランカ内戦のメモリアルレリーフ General Denzil Kobbekaduwa Memorial

スリランカの内戦に興味があると伝えたところ、ドライバーが連れて行ってくれました。カイツ島（ペラナイ、ヴェラナイとも呼ぶ）の荒野にぽつりと設けられた、内戦の記憶のための場所です。内戦で命を落とした軍人たちのレリーフ

風化した兵器。却って生々しさを感じる

ジャフナ・フォート～内戦もくぐり抜けた強固な岩

植民地時代に建設され、内戦をも潜り抜けた砦です。現在も内戦で破壊された場所を修復中のようです。」

